



総会の様子

四月七日(土)茨城県立歴史館において第二回総会が開催されました。五二名の会員が参加し、十八年度の事業計画と収支決算報告、十九年度の活動方針案・事業計画案・収支予算案の五議題がすべて原案通り承認されました。(四面参照)

和田会長の挨拶では、平成梅林推進事業への反応として、全国的にも大きな期待が寄せられていること、募金も順調に進んでいることが紹介されました。

戸市長は、中心市街地の復活と観光の活性化を計るため市が取り組んでいる事業を紹介され、会も色々アイデアを出して活動してほしいとの期待を述べられました。

討論では、平成梅林の設置において偕楽園の見通し景観を損なわないよう配慮してほしい、偕楽園の入場料を取つてはどうか、行事の広報を工夫してほしい、偕楽園の写真や絵画などの展示会を企画してはどうか、など熱心な討論が行われました。

次年度以降の苗木の確保については、接ぎ穂は都立農林高等学校ほかに協力をお願いして確保します。苗の台木は市内天神山木楽園主寺門久雄氏が約一〇〇本分を確保してくださり、接木も引き受けさせていただきます。

三名園の岡山後楽園と金沢兼六園から、水戸にない品種の苗木を寄贈してくださるようお願いしております。また、他にも

第二回総会開催

四月七日(土)茨城県立歴史館において第二回総会が開催されました。五二名の会員が参加し、十八年度の事業計画と収

偕楽園公園を
愛する市民の会

初年度の事業として一三三種三〇〇本の苗木を発注しました。六月六日県公園街路課の二名と会の役員二名が視察したところ、県内かすみがうら市の苗畑で順調に成育していることを確認できました。

県公園街路課ではその後も全国の梅品種の調査を進め、梅を持つている著名な公園や施設にある梅の品種の一覧表を作成し、偕楽園と弘道館の品種との照合を進めています。また、県による苗畑の整備は、第一回目分として好文橋北の二〇〇坪(六〇〇坪)が準備中で、その隣接地一糸二町歩を第二回目以降の苗畑として整備する計画です。

第一回の苗木の植付けは平成二十年二月十六日の植樹祭の日に予定しています。それまでに苗畑の整備や管理方法の確定などを行う必要があります。

次年度以降の苗木の確保については、接ぎ穂は都立農林高等学校ほかに協力をお願いして確保します。苗の台木は市内天神山木楽園主寺門久雄氏が約一〇〇本分を確保してくださり、接木も引き受けさせていただきます。

三名園の岡山後楽園と金沢兼六園から、水戸にない品種の苗木を寄贈してくださるようお願いしております。また、他にも貴重な梅品種を確実に育成する手厚い体制を作ることが大切になります。これはお金だけではできません。除草など、の管理に協力する「梅ボランティア」など、皆様のご協力をお願いいたします。

募金・助成金の現状

樂園の見通し景観を損なわないよう配慮してほしい、偕楽園の入場料を取つてはどうか、行事の広報を工夫してほしい、偕楽園の写真や絵画などの展示会を企画してはどうか、など熱心な討論が行われました。

平成梅林推進事業の現状

今年度の事業として一三三種三〇〇本の苗木を発注しました。六月六日県公園街路課の二名と会の役員二名が視察したところ、県内かすみがうら市の苗畑で順調に成育していることを確認できました。

これまで苗木の購入費用はめどがつきましたが今後の育成管理や定植に向けて多くの費用が見込まれるため、募金は引き続き行います。会員の皆様のご協力をお願いします。

なお、大好きいばらき県民会議「ご近所の底力再生事業」助成金十万元を受けたことが決まりました。

第一期事業の実施計画

第一期の募金目標を達成できたため、来年度に約三〇〇品種一〇〇〇本の苗木を接木育成して購入することとなりました。これで合計五〇〇品種余になります。

その場合、平成二十一年に第二回分の植付けとなります。そのための苗畑の準備が必要になります。さらに、早ければ平成二十五年以降に成本として定植する連絡協議を進めています。

協力の申し出があります。

記念講演「千波湖と偕楽園」 行事報告

第二回総会の記念講演会として「千波湖と偕楽園」が催されました。本会副会長大槻功氏(茨城大学教授)が、スライドを用いて、地図などを示しながら千波湖と偕楽園の歴史的関係を、話されました。

千波湖 残っているのが不思議

水と緑の水戸市のシンボルとなつてゐる千波湖は実は残つてることこそが最大の謎といえます。

都市の中にあつた湖や池・沼など、戦後の高度成長のなかで埋め立てられ大半が姿を消しました。

千波湖が残つたのは偕楽園があつたからです。偕楽園は千波湖を背景とするだけなく、一体となつています。そして偕楽園は水戸の二名君の一員である徳川斉昭公が作つたものとして、水戸および茨城県の誇りであったのです。だから、何度かの埋め立て計画を乗り切つて現在の姿を保つています。

斉昭公の天保の国づくり

九代藩主斉昭公は藩主就任後、創設時の武士と藩の姿を取り戻すことを目指して大規模な藩政改革に着手しました。改革の目標は、経界の義(全領検地)、土着の義(藩士の領内移住)、学校の義(藩校弘道館と郷校の設置)、総交代の義(家臣の江戸定府を廃止)でした。この改革で、藩内各地に重臣が家来とともに移住して海防のための砦を作つたり、各地に郷校が設置されたりして新しい国づくりが試みられました。

明治維新後の千波湖と偕楽園

明治四年の廢藩置県で水戸藩がなりました。千波湖の維持管理はここを水源と

れました。城下町水戸も西端に新屋敷(新莊)が開かれ、さらに西南端に弘道館の付属休養場として偕楽園が開設されるなど、新しい街つくりも行なわれました。

偕楽園は好文亭と庭園がある遊覧の場だけでなく、御茶園や陶器製作所が設けられるなど、藩内の物産増殖のための試験場の役割も持つていました。

一方、偕楽園は明治六年に日本最初の公園の一つとなり、県が管理しました。同じ明治六年に、偕楽園の二画を割いて常盤神社の創建が認められました。こうして、偕楽園は藩の支えを失つた後も、水戸と旧水戸藩の精神的支柱として存続することになりました。

江戸時代の千波湖

千波湖は江戸時代初期、水戸城下町を作る時に城の下の低地に広がついた沼地や低湿地を埋め立てて作られたものです。

江戸時代、千波湖は水戸城の外堀として武士には重要なものでしたが、水戸に住む町民にとっては魚釣りや鳥獣、船遊びが禁止されているだけではなく、藻刈・泥浚いの負担があり、洪水の原因ともなつたので邪魔者だったとも言えます。



大槻副会長の講演

千波湖改修事業

明治以降、千波湖が荒廃したうえ、千波湖上流の開墾・下流の干拓が進み、用水が不足します。この対策として、千波湖の三分の二を埋め立てて水田を造成し、その売却代金を資金として那珂川からの揚水施設と千波湖の整備を行うという案(三方一両得)が県から提案され、実施されます。

工事は大正九年から昭和七年まで行われ、水戸駅の南が一面の水田となり、桜川が延長されて那珂川に直接注ぎ、残された千波湖は護岸のうえ周囲を遊歩道が廻るよう整備され、面目を一新しました。

偕楽園は明治二五年に水戸市が管轄していましたが、大正九年に茨城県の管轄に戻されて整備が進められ、あります。

する下流の村々の責任となりました。農民は、水利土工会のち水利組合を組織して、水門と水路の補修・管理や千波湖の藻刈などを行ないますが、人手と費用が不足して、千波湖は荒廃します。溜池が町の中にあるわけで、周囲の住民や農民との摩擦も起りました。

十一年には国指定史跡および名勝に指定されました。

偕楽園と千波湖の戦中戦後

戦時下的偕楽園は水戸学のメッカとなり、東湖神社が常磐神社の中に、護国神社が桜山に創建されました。終戦直前の水戸大空襲の目標となり、好文亭と常磐神社が焼失するなど大被害を受けました。

戦後初期の物資不足の際、偕楽園の手入れが行き届かなくなり、樹木が燃料として採取されるなど荒廃しました。千波湖を排水して水田にしたのも戦後のことです。

焼失した常磐神社と好文亭は昭和三十三年に再建され、以後觀光の目玉となりました。

駅南再開発と千波湖の公園化

高度成長とともにあって水戸の商業が繁榮するなか、立ち遅れた下市の再開発が着手され、その延長の千波湖干拓地も駅南再開発事業で宅地化されました。

千波湖周辺の公園化が水戸市によつて計画され、テニスコートや偕楽園レイクランドなどとして昭和四十年代に実現します。それが一通り完成した後、県が偕楽園と一体として開発する大規模公園化構想を立案し、現在進行中です。これは偕楽園の元の姿を取り戻す「原状回復」をコンセプトとしていますが、色々困難があります。

行事報告

偕楽園の梅で梅干つくり

六月八日 清け込み

集まつたのは一七名の会員。当日H.K.の取材があり、TVクルー五名が参加しました。根本社長の指導のもと、当日偕楽園で落としたばかりの梅実一五〇キログラムを洗つて、三〇キログラムのメキシコ産天日塩田塩をよくまぶし、たるに漬け込みました。



偕楽園公園センターから六月八日の梅落しへの参加が困難であるとして、日程延期の申し入れがあり、役員会で検討しましたが、今回は梅落しへの参加を見送り、提供された梅を使っての梅干つくりだけを行うことになりました。

七月二二日 天日干し

一二名が参加して、まず味見しました。まろやかな塩味、サッパリした食感でした。次いで、黙々と干しかごに並べます。作業は単純ですが、あ、腰が痛い。

七月二四日 天地返し

曇り続きだったにもかかわらずうまく色づいて、心配していた根本社長も一安心でした。この日は晴れで暑い中、一個ずつ丹念にひっくり返します。

七月二六日 容器詰め

一日間の晴天に恵まれ、いい色に

なった梅干は約八〇〇〇個。約二五人の参加者が約四〇個入りの中容器と五個入りの小容器一二〇〇個に詰め、オリジナルラベル（上掲）を貼りました。

中容器は、参加者に白梅酢とともに一個ずつ配布されました。小容器は二月十六日に予定される第一回植樹祭の参加者や、大名庭園交流会でのお土産に活用することになります。

完成した梅干は塩のみで漬け、天日で干した昔うめぼしで、長期保存に耐えるそうです。最高の偕楽園の記念となるでしょう。



梅拾いと梅干造りを行事に

偕楽園の梅は毎年六月ころ実落しを行い、収穫した梅の実を市民に販売していますが、梅干に用いるには最適でないようです。

それは、偕楽園の梅は品種が多くて花梅が多く老木も多いのが特徴で、翌年の開花の充実のため完熟の前に収穫するからです。実梅を集中して栽培する梅林で収穫し市販される梅の実とは違うのです。それでも多くの市民が求めるのは、それが「偕楽園の梅」という特別の附加価値を持つているからでしょう。偕楽園の梅の実をもつと価値あるものにするために、実落とし、実拾いに市民が参加し、その後梅干や梅酒作り、さらに水戸藩伝来の紫錦梅や各種の梅菓子づくりなどを実習する市民参加の行事にしてはどうでしょうか。これまでも特別行事として何度も行われてきましたが、今回の行事を体験して改めて実感しました。

これから行事

本会の行事は「水戸市報」や新聞各紙などの行事案内に掲載されるよう努力していますが、会員への個別のご案内は致しません。

お問い合わせは葉書あるいはファックスで連絡担当者までご連絡ください。

「秋の野の花をめぐる」

偕楽園の魅力はその広大な敷地に多様な自然が活きているところにあります。中秋の名月の日の午後、専門家の案内で園内の草花を探索しませんか。

・ 九月二十五日（火）

・ 時間 午後三時～五時

・ 集合場所 偕楽園公園センター

（護国神社前）
講師 安昌美氏

（茨城県環境アドバイザー）
小雨決行・悪天候のときは中止
連絡担当：小菅次男

〒310-0025 水戸市天王町一十九
Fax ○二九一-二二一-一七九三七

大名庭園サミット テーマ／大名庭園の暮らしと文化

昨年発足した五庭園による民間交流会が、岡山後楽園で開催されます。

十月五日に「大名庭園を活かし

た街づくりの可能性を探る」のパネルディスカッションと交流懇親会が持たれ、翌六日から創設三百周年を迎える能舞台での特別公演など多くの行事が予定されています。

十名の会員が参加しますが、多くの会員の参加を歓迎します。

・ 九月二十五日（火）

・ 時間 午後三時～五時

・ 集合場所 偕楽園公園センター

（護国神社前）
講師 安昌美氏

（茨城県環境アドバイザー）
小雨決行・悪天候のときは中止
連絡担当：小菅次男

〒310-0025 水戸市吉沢町一一二三
Fax ○二九一-一四七一〇四三八

・ 連絡担当：湊正雄

・ 出発は十月五日早朝

・ 豊かな秋色変化は偕楽園ウォーキング

・ 偕楽園は四季を通じて豊富な自然の装いに包まれます。秋色濃いもみじ谷、歴史館庭園に生きている喜びを感じるでしょう。約四キロを語り合いながらのウォーキングです。

・ 九月二十五日（火）

・ 時間 午後三時～五時

・ 集合場所 桜川駐車場

（護国神社下）
講師 安昌美氏

（茨城県環境アドバイザー）
小雨決行・悪天候のときは中止
連絡担当：川上清

・ 九月二十五日（火）

・ 時間 午後三時～五時

・ 集合場所 桜川駐車場

設される苗畑に植樹します。平成梅林のスタートの行事となります。

・ 平成二十年二月十六日（土）

・ 場所 苗畑（好文橋北）

・ 時間 未定

詳細は次号でお知らせします。

記念講演会「梅の魅力を語る（仮）」

これを記念して梅の全国的権威の方に梅について語っていただきます。

・ 時間 午後一時三十分

・ 講師 未定

詳細は次号でお知らせします

ホームページ開設

念願だった会のホームページを開設することができました。

会報「偕に楽しむ」の内容を掲載するほか、会のお知らせ・各種行事の案内などを掲載します。活用のアイデアをお寄せください。

URL：<http://www.kairaku-en.jp/>

入会の御案内

- ◆本会の行事に参加できます。
会報をうけとれます。
- ◆随時入会を受け付けます。
申し込みは事務所あるいは知り合いの役員まで。
- ◆会費は年1千円
事務所：水戸市末広町2-2-10
祐月本店内 〒310-0053
tel:029-222-1117
fax:029-222-1116

本年度は第一回発注の苗を、県から提供してもらった苗畑に移す、第一回植樹祭を計画しております。三年間にわたり植樹祭を行い、ある程度の大きさになるまでこの苗畑で育て、その後定植いたします。この事業は完成までに長い年月を要することになります。

購入資金は募金によってまかないます。市民の力を結集して偕楽園公園に新しいページを加えようではありませんか。

（後略）

昨年の三月十九日に当会の設立総会を開催し、一年が経過しました。会報でもご紹介しておりますように、偕楽園公園にて事業を展開し、学習をしてまいりました。

特に力を入れたことは偕楽園公園の新しい魅力の創造でした。県民の誇りである偕楽園の梅林は九代藩主斎昭公が並々ならぬ意欲と情熱で、自ら種子を江戸藩邸より

水戸に送り創設された庭園であり、日本最初の公園の一つであります。

かつて日本一と言われましたが、

その後幕末の動乱、戦災により荒廃しながらも、多くの方々の努力

により現在は一〇〇品種三〇〇〇

本と称されています。私たちは偕楽園公園を再び日本一の梅園に

したいと念じ、平成梅林整備計画委員会を編成し活動を始めました。

（中略）